

きゆうじょういき くぎ 旧城域を区切るように、あたらし どうろ つく 新しい道路も作られていきました。そのうち もっと おお 大きなものが先ほど「一本の大きな道路」として出てきた大手通り（現在の大手モール）です。とやまじょう ほんまる 富山城の本丸とにのまる とばし さんのまる やしき あいだ みち 二之丸をつなぐ土橋、三之丸の屋敷の間の道、そして大手門跡を結んで作られました。

とお けんない もっと みちはば ひろ この通りは、県内で最も道幅が広く、しょうわしよき しょうわしよき しやくしよ がっこう びょういん としよかん しんぶんしゃ 昭和初期まで市役所や学校、病院、図書館、新聞社、ゆうびんきょく しょうてん た なら とやま 郵便局、そして商店などが建ち並ぶ、富山のメインストリートとして賑わっていきました。大しやう ねん しないきどう しでん かいつう 正2年には市内軌道（市電）も開通しています。



めいじ じだいこう き おおて でお 明治時代後期の大手通り

げんざい おおて げんざい おおて 現在の大手モールです。そうがわ でお まじ あに 総曲輪通りと交わる辺りから、城址公園の方向を見た風景です。

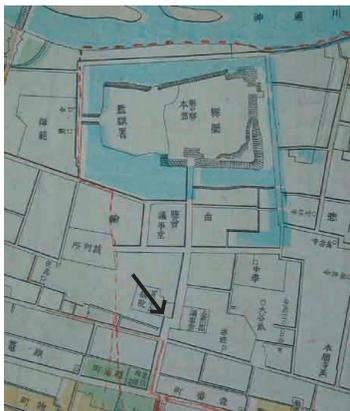


きゆうとやまじょうはらいぎげす 旧富山城下図

あかいろ あたら びせつ どうろ ちづ まんなか 赤色が新しく敷設された道路。地図の真中に縦に書かれているのが大手通りです。

### こんなこともありました その1

おおて でお だいじょう ちざ み げんざい しみん あた かぎ てじょう ま 大手通りについて明治初期の地図を見ると、現在の市民プラザの辺りで鉤の手状に曲がっています。これは、おおもん なごり おおもん ふきん てき しんにゆう 敵が侵入しようとした際にちよくしん ふせ ますがた 直進するのを防ぐため枡形になっていたのです。なお、この部分は、明治32年の大火のあと えんしょうぼうし しょうぼう しんこう いちぶ かくふく ちよくせんどうろ かいしゅう の後、延焼防止や消防ポンプの進行のため、一部を拡幅して直線道路に改修されました。



めいじ ねん 明治25年 かくかくまえ かぎ てじょう ま 拡幅前。鉤の手状に曲がっています。



めいじ ねん 明治41年 かくかくこ ちよくせんどうろ 拡幅後。直線道路になっています。